

朱七だより

令和元年度前半
学校評価臨時号

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/suzakudai7-s/>

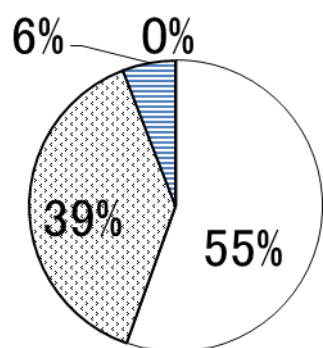
10月上旬に行いました学校評価アンケートに、多数ご協力をいただき、本当にありがとうございました。保護者の皆様から220件の回答をいただきました。この学校評価臨時号では、保護者アンケートに加え、児童のアンケート、教職員の自己評価の結果をお知らせします。この結果をもとに、学校・家庭・地域が今まで以上に連携しながら、さらに子どもたちを育む今後の学校づくりに生かしていきたいと思っております。

【グラフの表示について】

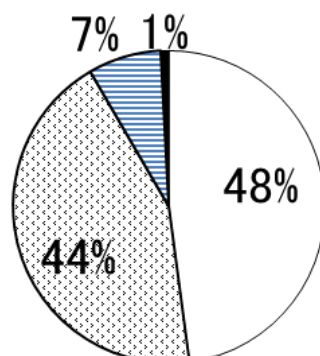
□ よくあてはまる、▨ あてはまる、▩ あまりあてはまらない、■ 全くあてはまらない
児…児童 保…保護者 教…教職員

保護者の皆様から見た学校（教職員）の評価

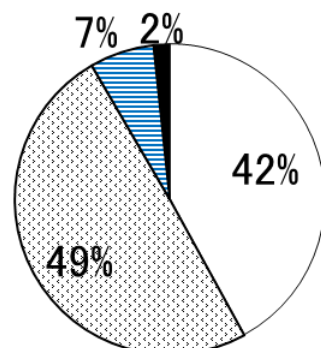
教職員は、誠意をもって指導にあたっている。



教職員は、学校・学年・学級の方針や取組の様子を分かりやすく伝えている。



教職員は、授業参観・懇談会、各行事など、多くの保護者に来てもらえるように働きかけている。



上記の3つの円グラフは、保護者アンケートの中から、教職員の取組に対する評価についてのアンケート結果を表したものです。3項目の結果は、どれも学校の取組に対して、肯定的な評価をしていただいています。今後も□(よくあてはまる)の割合が高くなるように、教職員一同、努力をしていきたいと思ひます。また、右二つのグラフ「学校・学年・学級の方針や取組の様子を分かりやすく伝えている」「授業参観・懇談会、各行事などに、多くの保護者に来てもらえるように働きかけている。」の項目は、■(あてはまらない)の回答も見られました。各種行事のご案内だけでなく、学校だより、学級だより、学校ホームページ等を活用して、学校の様子や内容を分かりやすく伝えるよう工夫していきたいと思ひます。

家庭で大切にしていること

学校評価アンケートでは、各設問項目に合わせて、「家庭で大切にしていること」をお聞きしました。A(よくあてはまる)、B(あてはまる)と肯定的に回答していただいた方の割合は以下の通りでした。

回答項目	今回	昨年度後期
家庭では、学校での出来事について、子どもと一緒に話をしている。	93%	96%
家庭では、子どもの話をしっかりと聞いている。	92%	95%
家庭では、子どもががんばっている姿をほめている。	96%	95%
家庭では、子どもが物事に最後まで取り組めるように励ましの声かけをしている。	93%	92%
家庭では、読書の時間を設けている。	37%	34%
家庭では、子どもに、自分や人を大切にするよう話をしている。	97%	98%
家庭では、子どものよさを認めたり、励ましたりしている。	97%	96%
家族は、自分から気持ちのよいあいさつをするようにしている。	97%	95%
家庭では、子ども自身が忘れ物をしないように点検する習慣を付けている。	80%	72%
家庭では、基本的な生活習慣が身に付くように、家族で協力している。	94%	93%
子どもの家庭学習が落ち着いてできるように、環境を整えている。	84%	78%
家庭では、日頃から学級での学習や生活の様子について聞くようにしている。	94%	96%
家庭では、学校からの配布物(学校だより、学年・学級だより等)は必ず読んでいる。	92%	92%
参観・懇談会など、学校にはよく足を運んでいる。	84%	77%
学校や地域の取組に進んで参加している。	72%	48%

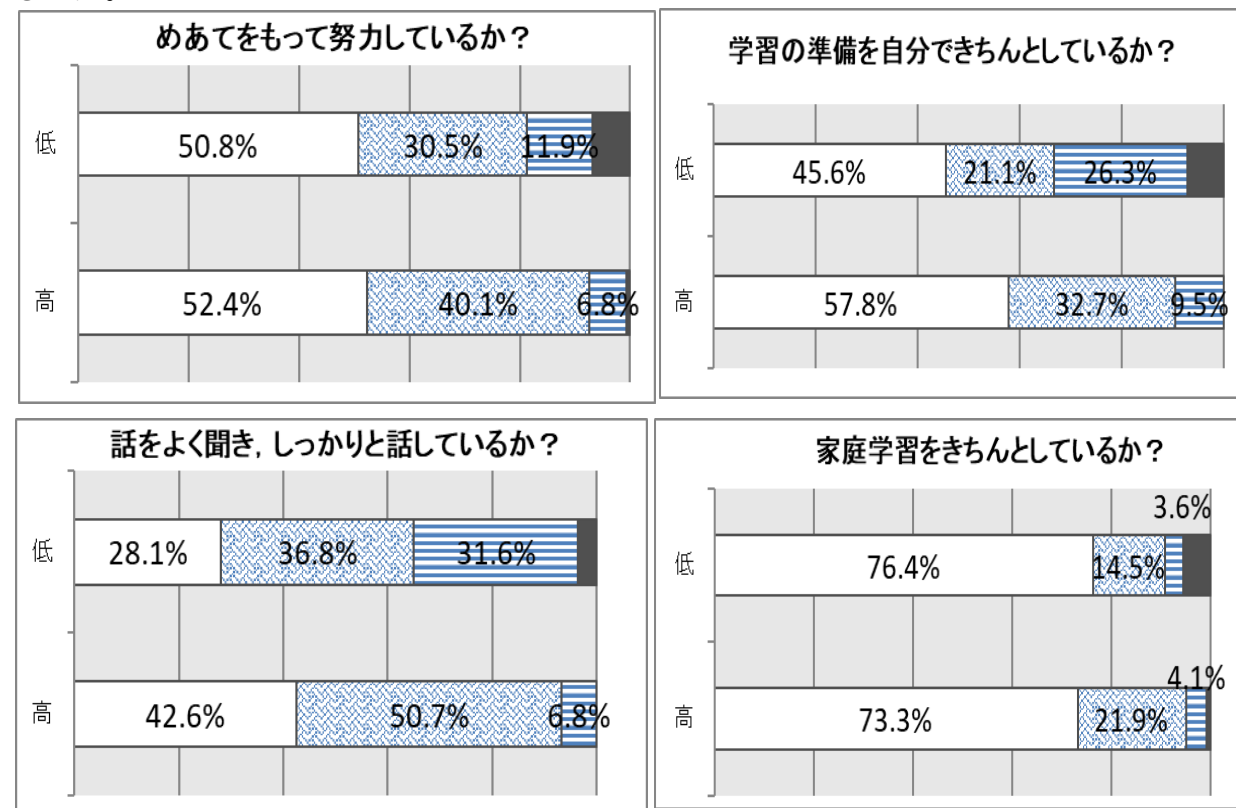
昨年度と比べて肯定的な回答が増えています。「子どもががんばっている姿をほめている」項目で高く、また、「最後まで取り組めるように励ましの声掛けをしている」項目でも高くなっています。ご家庭で子ども達と会話を増やししながら、学校での様子を把握し温かく励ましていただいていることが伺えます。そのことで子どもの自己肯定感が高くなり、学校で自分の力を発揮し、目標に向かって取り組むことができているのだと感じています。

「家庭学習が落ち着いてできるように、環境を整えている」項目では、昨年よりも6%上がり、「家庭で読書の時間を設けている」項目では、昨年よりも3%上がっています。学校での学習がさらに高まるように見守ってくださったり、読書を意識してくださったりしていることが分かります。子どもが主体的に学ぶためには、家庭で進んで学習したり読書したりすることも大切です。家庭学習や家庭での読書の意義を保護者の皆様と共有できることを願っています。

「学校にはよく足を運んでいる」項目と「学校や地域の取組に進んで参加している」項目の肯定的な回答が高くなっていることから、今後さらに、学校・家庭・地域が協力して子どもの成長を見守る取組が充実できるようにしたいものです。

低学年・高学年の共通項目についてのアンケート結果

学校では、主体的に学ぶ姿を求めて様々な取組を行ってきています。それに関連する項目について、低学年（１・２年）と高学年（３～６年）のアンケート結果を比べながら分析してみました。



この２つの項目は、めざす子ども像の一つ「かしこい子：自分の考えをもち、自ら学ぶ子」につながるもので、教職員が学習場面で大切にしていることです。「めあてをもって、努力している」と「話をよく聞き、しっかりと話している」の両方の項目に対して肯定的な回答の割合は、低学年より高学年の方が多くなっています。授業の中で繰り返し積み重ねてきたことで、児童が自覚できている結果ではないかと思われます。

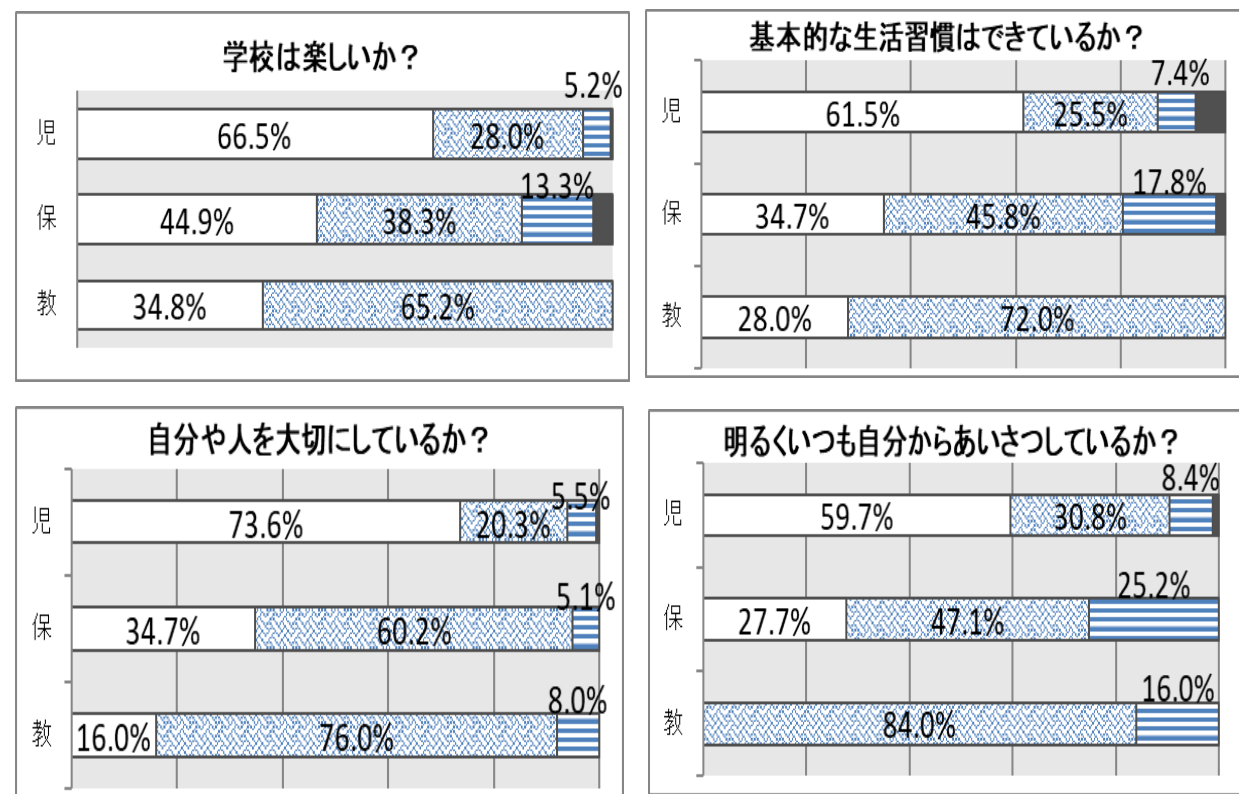
子どもが「めあて」をもち、それに向かって努力していることを認めていきます。その上で、より主体的なめあての設定とめあて達成に向けての取組を進めていきます。また、授業場面において、児童が自分のおもしろい考えを話す場を多く設定し、自信をもって話すことができるように取り組んでいきます。今後も、学習に対して意欲をもって最後まで取り組めるように支援してきたいと思います。

「学習の準備を自分でできているか」の項目について、肯定的な回答の割合は、低学年より高学年の方が多くなっています。低学年の間は、おうちの方に助けてもらう部分も多くなるでしょう。学年が進むにつれて自分でちゃんと学習準備ができるようになっていくことを期待しています。そのためにも、低学年の間におうちの方が丁寧に見守っていただけるとありがたいです。

「家庭学習をきちんとしていますか」の項目では、肯定的な回答の割合は、高学年の方がやや高くなっています。家庭学習の内容を見ても、自主学習など一人一人が自分に合った学習をすることも必要になってきます。今後も、児童が主体的に学習に取り組めるように、学校と家庭が連携していきたいです。

児童・保護者・教職員 3者の共通項目についてのアンケート結果

学校教育目標「自分のよさを磨き、つながりを大切にする子どもの育成」のためめざす子ども像として、「かしこい子」「やさしい子」「たくましい子」を掲げています。この視点から、今回の学校評価アンケートの結果を、児童・保護者・教職員を比べながら分析してみました。



すべての児童にとって、学校が「安心で居心地のよい場所」になる必要があります。「学校は楽しい」の項目に対して児童は、肯定的な回答が94.5%、否定的な回答が5.5%でした。否定的な回答の児童がいることをしっかり受け止め、教職員一人一人が、児童との対話を大切にすると共に、学級経営の在り方、授業の進め方などを振り返ります。

「やさしい子：認め合い、共に高まり合う子」をめざす子ども像の一つとして大切にしています。「自分や人を大切にしているか」の項目に対して、3者ともに肯定的な回答が大部分を占めています。しかし、わずかながらも3者ともに否定的な回答があることについては、重大に受け止めていきたいと思ひます。「人を大切にする」とはどういうことなのかを具体的に話し合うなどして、自分の言動を振り返る機会を多くもつようにしたいものです。

めざす子ども像の一つ「たくましい子：体をきたえ、最後までやりぬく子」のためには基本的な生活習慣を見直すことが大切です。「起床時刻・就寝時刻」「朝ごはん」「歯磨き」「排便」などがあげられます。就寝時刻が遅くなると、起床時刻が遅くなり、朝ごはんを食べる時間が短くなることにもなります。朝ごはんをきちんと食べないと、脳がはたらかない状態で学習に向かうことになります。また、あわてて登校し忘れ物をするにつながるかもしれません。早く寝て、決まった時刻に起床できますよう、ご協力をよろしくお願いします。

「自分から明るくあいさつをしているか」の項目に対しては、肯定的な回答が児童と教職員が多くなっているのに対し、保護者は74.8%とやや低くなっています。あいさつができる児童は増えてきたと思われますが、今後はどんな場面でも「明るく気持ちのよいあいさつ」ができるように声を掛けていきたいと思ひます。あいさつは人を大切にするにつながるということも、児童に伝えていきます。